

「あなたやご家族が 胃がんと診断され たら」

胃がんとはどんな
病気ですか？

胃がんは胃の壁の内側にある粘膜細胞が無秩序に増殖するようになった病気です。一般に検査で見つけられる大きさになるまでには、何年もかかるといわれています。がん細胞は大きくなるに従って胃の壁の中に潜り、胃の壁の外側をおおう漿膜や、さらにその外にある大腸や膵臓にも拡がっていきます。がんがこのように拡がることを「浸潤」といいます。また、がん細胞は、リンパ液や血液の流れに乗って他の場所に移動し、そこ

胃がんにはどの様な検査が行われますか？

で増殖する「転移」を起こします。最も多い胃がんの転移はリンパ節転移で、早期がんでも起こることがあります。また、進行がんでは、腹膜や肝臓などにも転移を起こすようになります。しかし、早期の段階で治療を受ければ約9割は治る病気です。進行しても症状がでない場合も多いので、早期発見には定期的な検診が必要です。

胃がんが疑われると、胃の内視鏡検査（いわゆる胃カメラ）や

胃X線検査（バリウム検査）を行います。内視鏡検査は内視鏡で胃の内部を直接見て、がんが疑われる場所の広がりや深さを調べる重要な検査です。内視鏡でがんが疑われる場所の組織の一部を採って、がん細胞の有無を調べる病理検査も行い、確定診断がえられます。病理検査の結果はグループ1から5に分類されます。グループ1は正常細胞、5はがん細胞で、ステージとは異なり細胞ががんかどうかを判断する分類です。

がんの拡がりや転移を調べる検査としては、腹部超音波検査、CT検査、注腸検査（大腸のバリウム検査）などが行われます。

ステージとは何ですか？

ステージとは、がんの進行の程度を示す言葉で、ローマ数字でⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳと表されます。日本語では「病期」といいます。ステージは、がんが胃壁の中にどのくらい深くもぐっているのか、とリンパ節や他の臓器への転移があるかどうかによって決まります。『胃癌治療ガイドライン』では各ステージに対する治療方針が示されています。

胃がんに対してどの様な治療が行われますか？

内視鏡的治療
粘膜内にとどまり、リンパ節に転移している可能性がほとんどない極早期の胃がんは内視鏡的治療が可能です。

手術療法

しかし、リンパ節転移の可能性がある胃がんでは手術が標準的治療です。胃の切除と同時に、

決まった範囲の周辺のリンパ節を取り除くリンパ節郭清を行います。胃の切除の範囲は、がんのある場所と病期の両方から決定します。

腹腔鏡下胃切除

腹腔鏡下手術は、腹部に小さい穴を数カ所開けて、専用のカメラや器具で手術を行う方法です。最新の胃癌治療ガイドラインでは、「胃がんの腹腔鏡手術はステージⅠの胃がんへの選択肢となりうる」と位置づけられています。日本では、1995年から健康保険で認められる治療となっており、開腹手術に比べて手術による体への負担が少なく手術後の回復が早いいため、手術件数は近年増加しています。

抗癌剤治療

胃がんに対する抗癌剤治療は、(1)手術後に再発の危険性を減らす目的で行われる術後補助化学療法、と(2)手術では取り切れない遠隔転移（腹膜、肝臓、肺、遠くのリンパ節など）がある場合や、術後に再発された場合に

行う化学療法があり、状況に応じて使われる抗癌剤や投与方法が選ばれます。

今月の先生



岐阜市民病院 外科
山田 誠 先生

○専門分野
消化器外科(特に上部消化管領域)、
一般外科(特にヘルニア)
○役職
診療局長(外科系部門)
外科部長
がん診療統括部長
地域連携部副部長
○主な資格・認定
日本外科学会指導医・専門医
日本消化器外科学会指導医・専門医

消化器がん外科治療認定医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
○卒業年、主な職歴
平成元年岐阜大学医学部卒
岐阜大学医学部附属病院助手
県立岐阜病院
国保金山病院
甲賀病院医長など
米国ロズウェルパーク癌研究所留学
国立がんセンター胃外科留学